

4 - 6 木片

(1) 形態観察

- ・ 色、形状、大きさ、厚さを観察する。
- ・ 維管束、導管様の構造があるかどうか確認する（写真1、2）。
- ・ 変形具合（破断、切削、熱収縮等）を確認する。

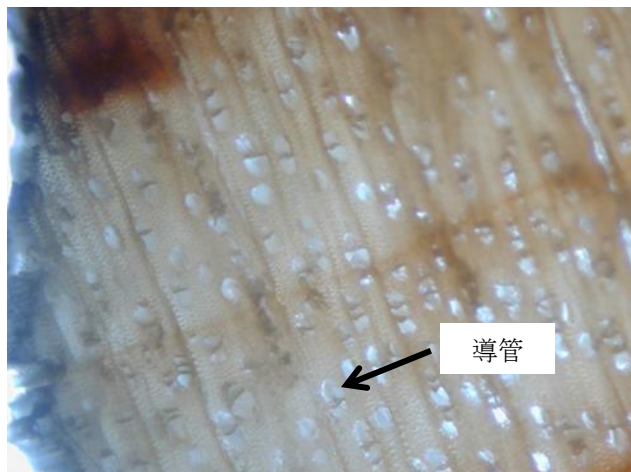


写真1 木箸の顕微鏡写真

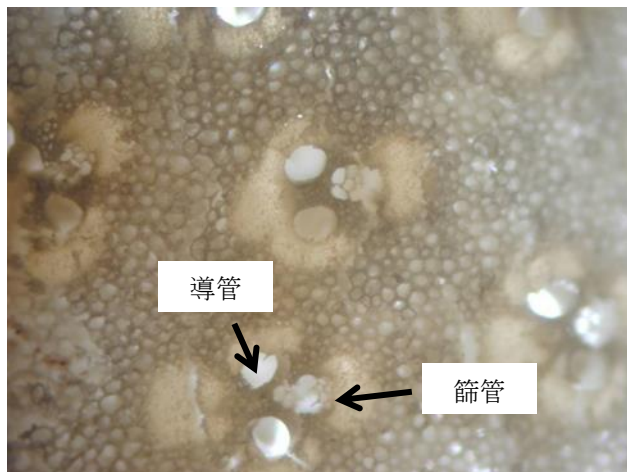


写真2 竹箸の顕微鏡写真

(2) 簡易分析

- 刃物（カミソリ等）による切断、挿入切断、挿入
 - ・ 材質、加工法により異なるが、切断・挿入可能な硬さの材質が多い。
- 呈色反応
 - ・ フロログルシニーリグニン反応で、全体が赤色に呈色することもある。
- 水との反応
 - ・ 多くは浮かぶが、沈む材質もある。薬剤の加圧含浸加工等により異なる場合もある。

(3) 機器分析

① FTIR

- ・ 材質の推定に有効。対照物があれば同時に測定する。セルロースと相関性が取れることもある。

② 元素分析

- ・ 通常実施しない。付着物によっては、参考になる情報が得られることもある。

(4) 異物鑑定のポイント

- 構造からでは種類の推定は困難である。
- 機器分析の中では FTIR が有効である。
- 複合素材の場合、該当しない項目がある。
- 用途が広すぎて、材質が推定できても混入経路の推定は難航する恐れあり。